

新聞に興味や関心を持って接し、新聞の良さを感じながら 親しんでいく子どもを育てるにはどうしたらよいか。

長野県埴科郡坂城町村上小学校教諭（代表） 仲 弘 久

1. 実践の概要

(1) はじめに

テレビ、ラジオ、雑誌、新聞、インターネット（パソコン）と子どもたちの身のまわりには、情報を得る手段が多くある時代である。しかし、このような情報化社会の中で子どもたちは、必要な情報をきちんとキャッチして、自分たちのために生かしているのだろうか。

子どもたちの情報の多くは、テレビから入っているのが実情のようである。子どもたちの会話の中にテレビからの話題が多く出てくる。テレビの良さは、日常生活の中で十分感じている子どもたちである。では、毎日目にふれる新聞についてはどうであろうか。

N I Eに取り組む前、子どもたちにアンケートをとり子どもの新聞に対する実態や意識を探ってみた。その結果、次のような姿がわかった。

- ・ ぜんぜん無関心というわけではない。
- ・ テレビ欄に目を通す子どもが多い。
- ・ 新聞記事そのものをじっくり読む子はほとんどいないが、見出しに関心を持っている子ども（新聞を開いて見出しには目を通すという子ども）が多くいた。

これらの子どもの実態から、新聞への興味関心を高めること、新聞のよさにふれることを考えてN I Eの取り組みを始めた。

(2) 1年目の取り組み

本校では、平成11年度、上記のようなテーマで1年間N I Eに取り組んできた。具体的には次のような実践を試みた。

- ・ 理科「天気の変わり方」の学習で、新聞の気象写真や天気図を活用した授業の展開をした。
- ・ 国語の説明文の学習において、段落分けや文の構成を調べるために新聞の見出しの秘密や工夫を探る活動を取り入れた。
- ・ 一人一人が最近のニュースを毎朝スピーチする活動において、ニュースの題材として新聞記事を利用した子どものよさを取り上げてきた。
- ・ 新聞が気軽に読めるよう、また、いつでも活用できるようにN I Eコーナーを設置した。

1年間実践を行い、平成11年度末の3月に新聞アンケートをしたところ次のような結果になった。

＜新聞についてのアンケート 2000年3月 5年生 33名＞

- ・ 新聞を読みますか？

毎日読む … 22名

週に3日ぐらい読む … 10名

週に1・2日読む…1名 ぜんぜん読まない…0名

・どんなところを読みますか？

テレビ欄…27名 4コマ漫画…21名 見出し…18名 スポーツ欄…9名

事件・事故の記事…8名 天気予報…12名 おくやみ欄…2名

地域のニュース…2名 1面記事…1名 映画の欄…1名

NIEに取り組む前と比べて、「見出し」「天気予報」「事件・事故」の部分を読む（目を通す）子が増えている。学校教育の中で教師の願いや意図があって取り上げた取り組みであるが、子どもたちに教師の意図や願いが、影響していることがわかる。アンケートと一緒に聞いた子どもの感想の中に「勉強してから新聞を見るのが多くなった」「テレビ欄以外も見ようと思った」「テレビ欄より天気欄を先に見るようになった」「気になる記事を読むようになった」「新聞を使った勉強は思ったより楽しかった」など、前向きな感想が多くあった。これは、この1年の成果として受け止めたい。

新聞のよさに着目した実践を試みることができ、子どもたちの新聞への興味・関心を少しではあるが高めることができた。しかし、課題として次の点が残った。

- ・新聞にある多くの情報をどう子どもたちに選ばせていくか。また、継続的に活動することで興味や関心がもっと高められないだろうか。
- ・高学年以外の子どもたちが新聞と関わる場面をとどう作っていくか。
- ・学校内での新聞に関する環境作りをどう進める

(3) 2年目の取り組みのねらい（前年度の成果と課題から）

NIEへの取り組み2年目、前年度の成果を生かして高学年だけでなく中学年（4年生）にも新聞のよさが伝えられる活動ができないか、継続的に新聞と関わる活動はできないか、といった課題のもといくつかの実践を試みてみた。また、新聞の置き場の工夫とその活用においても工夫を試みてみた。

中学年の子どもたちにとって、新聞はどのような存在なのか、新聞を教材として扱うにはどんな活用の工夫ができるか、そんな視点にたって実践を試みた。4年生の子どもたちを対象に新聞の四コマ漫画を教材として取り上げ、そこから新聞への興味関心を高めようとした。6年生では、各自のテーマ別新聞記事スクラップの活動、そのスクラップを活用した国語の作文学習、毎日のニュース発表の実践に取り組んでみた。

新聞の置き場所をNIEコーナーとして設置し、係の教師が中心となって展示の工夫をしてきた。新聞をただ展示するだけでなく、新聞記事を意図的に掲示しその記事に対しての子どもの意見を求める活動にも試みた。

1年目の成果と課題を2年目に試みた実践である。

2. 新聞の置き場所と整理の方法

＜置き場所＞ 3年生以上の児童が必ず通る2階中央廊下に6社の新聞を毎日展示できるスペースを設置 『NIEコーナー』と称している。

＜整理の方法＞ 係の教師が新しい新聞（1日前の新聞）が上にくるように数日間分をまとめる。まとめたものは、自由に子どもたちが読めるように、NIEコーナーに置く。

1ヶ月単位で各社に分けて保存する。学習で必要があれば資料として使えるように整理した。

○NIEコーナー

多くの子どもが行きかう中央廊下に「NIEコーナー」を設置した。新聞を自由に読めるスペースを作ったり、NIEの実践を紹介したりした。地元紙のほかに全国紙5つが1日遅れではあるが自由に読めるようにした。子どもたちばかりでなく教師にも好評であった。



3・実践の内容

(1) 中学年での取り組み

実践1；四コマ漫画を活用した実践より 4年生

① 授業者と授業学年 授業者 仲 弘久教諭 若林一成教諭 小林真紀教諭
4学年(48名)

② 題 材 名 「四コマ漫画を楽しもう」(4年東組担任)(4年西組担任)

③ 本時のねらい

○新聞への親しみを育てる機会とする。

○新聞に載っている四コマ漫画に題名をつけたり、漫画の中の吹き出しに言葉を入れたりして、描かれている漫画の筋や絵からイメージしたことを自分なりの言葉で楽しく表わすことができる。

④ 授業の実際(授業の流れと様子) T…教師の発問、指示 C…子どもの反応
◇一人一人新聞を自由にみる。

T:「新聞を配ります。しばらく自由にみてください。」

(一人1部新聞を配る 新聞は、信毎 毎日 読売 産経 朝日のいずれか)

C: 開いて目をやる 自分の興味あるところから見る子 隣の子の様子を見ながら新聞を開く子など

T:「今日は、この新聞をつかって勉強をしましょう。新聞が配られて、どこを見ましたか。」

C:「テレビ欄」

C:「一面を見ました。特に写真を見ました。」

C:「4コマ漫画を見ました。」

C:「野球、スポーツのところを見ました。」

T：「みんなはいつも新聞を家で読んだり、見たりしているのかな。」

C：8割ぐらいの子が、見ているという反応をする。

T：「思ったよりみんな新聞を見ているんだね。さっき4コマ漫画を見た、という人が多かったけど、今日は新聞の4コマ漫画をつかってみんなと勉強したいと思います。」

◇4コマ漫画に題をつけよう。

48名を3つのグループに分けてそれぞれの先生と4コマ漫画に題をつける活動をする。

T：コボちゃん6589号を印刷したプリントを見て題をつけるように言う。

C：初め戸惑っていた子どもたちであるが、教師の「自由に感じたことを題にしていよいよ」の助言に安心して、題をつけ始める。

<子どもたちがつけた題>

・パパのもの ・パパの洋服全然ちがう ・びんぼうパパ ・大きい服小さいさいふ
・パパの洋服に比べてさいふは… ・おさいふが… ・コボちゃんうっとりする

C：各グループでおもしろいものを発表し合う。

T：コボちゃん6571号を印刷したプリントを見て題をつけるように言う。

C：要領がわかりすぐに漫画を読んで題をつけようとする子が多い。

<子どもたちがつけた題>

・がみがみじじばば ・こまっちゃうなあ ・気が合うけんか ・気が合うふうふのけんか
・気が合う二人 ・気が合うのに… ・食べ物だけは気が合う ・気が合ううどん
・おかめうどん！ ・仲がいいのか悪いのか

C：各グループでおもしろいものを発表し合う。

◇4コマ漫画の吹き出しに言葉を入れよう。 あんずちゃん 11月30日

T：「みんなおもしろい題がつけられたね。今度は、漫画の後半2コマの吹き出しに文字が書いていないものを渡します。漫画の絵を見たり、お話の筋を想像したり、吹き出しに言葉をいれて漫画を完成させてください。」

*「あんずちゃん 11月30日」の教材として使ったものは後述してある。

<子どもたちが考えたもの>

3コマ父 「おいあんず、人の頭の上をジャンプするな。顔をふむだろう。」
「そうだ。腰をふんでくれよ。」

4コマあんず 「なんでこしをふまなくちゃいけないんだ。」

4コマ父 「気持ちいいな。天国にいるみたい。」

3コマ父 「あんず！親の上をまたぐな。」「またぐなら、ふめ！」

4コマあんず 「これでいいの？お父さん。」

4コマ父 「うーん、気持ちいい。」

3コマ父 「そんなにげんきだったら、たまにはマッサージしてくれよ。」
「背中のところののっかってくれればいいから。」

4コマあんず 「のってみたいくないのかな。」

4コマ父 「お母さんにのられるといたいからな。」

3 コマ父 「そんなに走り回っているんなら腰にのってくれ。」
「腰から落ちたら100円だぞ。」

4 コマあんず 「100円、100円…」

4 コマ父 「あー気持ちいい。」

3 コマ父 「おい走り回るな。」「そんなにひまならおれの腰をふめ。」

4 コマあんず 「いいよ、そのかわり100円ね。」

4 コマ父 「はー気持ちいいー。」

3 コマ父 「こらー、人の上をまたぐな。」「ちょっときなさい。」

4 コマあんず 「ふむのはいいの？」

4 コマ父 「あー気持ちいいー。」

3 コマ父 「うるさい。」「遊ぶなら腰をもめ。」

4 コマあんず 「じゃあつりばしごっこしながらね。」

4 コマ父 「お、重い。」

3 コマ父 「こらー、親の上をまたぐやつがいるか。」「ちょっときなさい。」

4 コマあんず 「もう、面倒くさい。…ねちゃったかな。」

4 コマ父 「ぐーぐー。むにゃむにゃ。」

友だちどうして作った吹き出しを見せ合い、発表し合う。

*ここままで時間になってしまう。各学級で発表をしてもらう。

*一つの学級では、だれの吹き出しへの言葉がよかったか、話し合った。

◇授業後の子どもの様子

授業の後、日記にこの授業の感想を書いてくる子が何人かいた。

今日、仲先生がN I Eの勉強を教えてくださいました。わたしは、新聞に四コマ漫画があることをしりませんでした。それだけでも勉強になりました。そして、四コマ漫画の題名をつけるのは、りょうさんののがとてもおもしろかったです。そして、自分が漫画家になるのは、とてもおもしろかったです。「新聞の四コマ漫画って楽しいな。」と思いました。
(4年女子)

今日の3時間目はN I Eの時間でした。私は、早く3時間目がこないかなとうずうずと待ちました。3時間目です。みんな、うきうき、わくわく。N I Eでやったことは、新聞の4コママンガの題名付けや、ふきだし作りです。おもしろいもの、なるほどと思うものいっぱいありました。特におもしろかったのは、しん太郎くんの「びんぼうパパ」、りょう君の「コボちゃんうっとりする」など、まだたくさんあります。「すごい！」と思ったのは、真紀先生グループのひかる君が2つも選ばれたことです。ふきだし作りは、正解があるのでちょっといやでした。私は、うちへ帰ったら、4コママンガを見て、題名をつけました。その名は、「ハナハナミズキ？」です。理由は、花と鼻水をくらべているからです。4コママンガは一石二鳥。
(4年女子)

今日、3時間目に会議室で仲先生が新聞の話をしてくださいました。その次に4コマのコボちゃんの題名を書いたり、あんずちゃんの手紙を書いたりしました。新聞があんなにおもしろいとは思いませんでした。
(4年男子)

今日NIEをやりました。新聞についてやりました。新聞にある4コマで、コボちゃんのことを勉強しました。ぼくは、時間がある時しか（新聞を）見ないから、なつかしくなりました。

時間があるときは、ぜひ見てみたいです。（4年男子）

図書館の先生の話では、NIEコーナーの新聞を見にくる4年生がふえてきたという。4コマ漫画を見る子が多いが、興味ある記事に目を通す子もいるという。

⑥ 授業を振り返って

○新聞の4コマ漫画を使って、言葉を見付け出す楽しさとか個性的な発想でものをみる良さを感じてほしいと願い授業を展開した。新聞の4コマ漫画に日常的に触れていない子どもが予想していたより多く、ある意味で子どもたちにとって新鮮であったようだ。

○題名付けは、やり方や目のつけどころがわかると楽しんで取り組んでいた。コボちゃん6571号のおじいちゃんとおばあちゃんの夫婦げんかでは、単なるけんかをとらえる子と気が合うおもしろさを感じていた子で題名のつけ方が大きく違った。その子の感じ方や考え方が出ていておもしろい反応であった。

○吹き出しに言葉をいれるのも、その子の感じ方、考え方が出ていて、個性的なものがあつた。自由な発想で書けたようである。あんずちゃんの様子に自分の生活を重ねている子どもの姿もうかがえた。

○新聞の4コマ漫画に興味を持ち、そこから新聞へ目が向いていけば、というのが今回の授業のもう一つのねらいでもあつた。授業後の感想などから新聞への興味が少し高まったようである。毎日届く新聞に対して、少しでも、4コマ漫画からでも、テレビ欄からでも興味を持っていてもらいたい。4年生という段階では、読みこなすことは難しい。新聞でいいな、おもしろいな、ためになるなという気持ちや感覚を育てていくことが大事であろう。その意味でも4コマ漫画など子どもが興味を示すと考えられるものを取り上げていくことは有効であると思う。

○4コマ漫画の他に、テレビ欄、写真をうまく題材として取り上げて学習を展開することもできるであろう。

◇授業の様子

「四コマ漫画
ここにもあるよ。」



◇新聞で紹介された記事より

Newspaper in Education

NIE

教育に新聞を

楽ひく

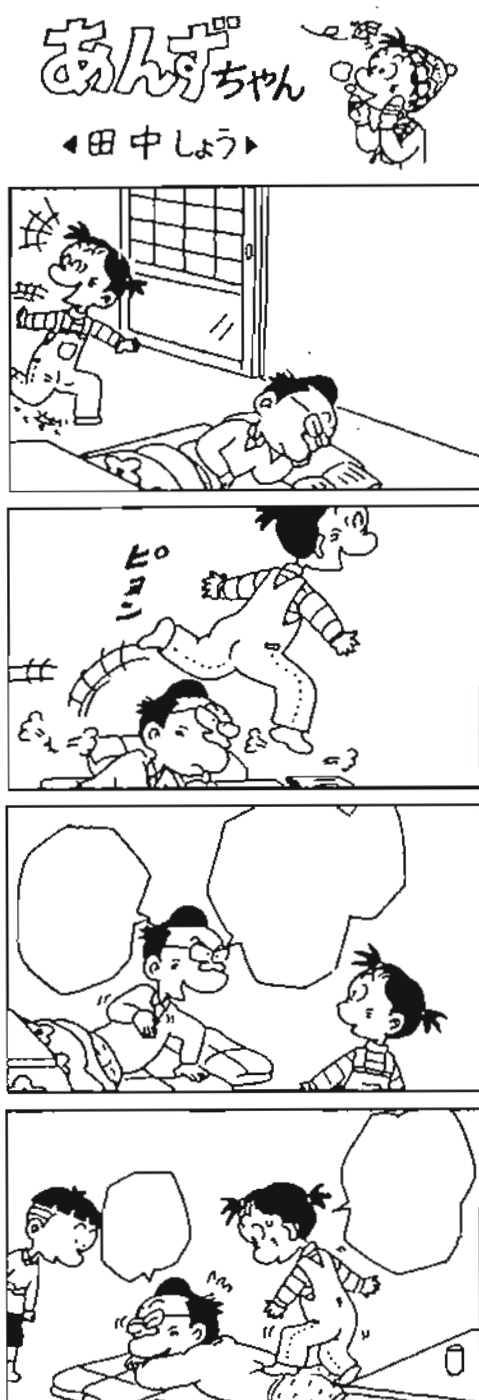
坂城町村上小
4年生

「三時間目に会議室で仲先生が新聞の話をしてくれました。その次に四コマの題名を書いたり、あんずちゃんの手紙を書いたりしました。新聞がつけて発表し合い、せりふも目立っていました。」

4コママンガ題材に

心を消した「吹き出し」に話の筋を想像してせりふを付けた。子どもたちの感想には「自分が漫画家になるの」とも出てきた。新聞で面白かったのは「題名や吹き出し」だ。

◇教材として使った四コマ漫画



(2) 教科学習での取り組みより
実践2：新聞記事スクラップを活用した意見文学習

① 学習のきっかけ

昨年5年生の時に新聞を活用した取り組みを実践してきた子どもたちである。6年生になって、より日常的な取り組みをしようと各自テーマを決めて、新聞記事のスクラップ作りをした。スクラップ作りが2ヶ月ほど経過した頃、国語の学習で自分の意

6年生

見や考えを文に表す学習に取り組んだ。何かひとつテーマを決めて、自分で調べたことを元に、自分の考えを意見として文にまとめる学習であるが、その材料として各自の新聞記事のスクラップを取り上げることにした。スクラップ作りの中で各自のテーマが決まっており自然な形で学習に入れると考えたからである。

また、日常的に自分の考えをもってスクラップ作りをしており、その成果をみるいい機会にもなると考えた。自分の考えを意見文として表す学習の材料は、図書館の本やインターネットの中の情報などいろいろある。しかし、子どもの意識が向いている新聞記事の中にその材料を求めることにした。スクラップしてある新聞記事は、子どもがいつでも自由に調べられるという利点があり、それも活用したいと考えた。

② 学習の流れ

自分の新聞スクラップを見返して意見文という視点に立ってテーマを決め出す。

テーマに沿って材料となる新聞記事を洗い出す。

新聞記事を使って、調べる。

- ・ 観点に沿って表や図にまとめる。
- ・ 記事の内容を読み取り、項目ごとにまとめる。
- ・ 新聞の写真、表、図などを分析する。

調べたことを元に意見文にまとめる。横書きに書く方法を知る。

友だちの意見文をみんなで読み合い感想を言い合う。

③ 学習の様子から どんなテーマで、どんな新聞記事を活用し、意見文にまとめていったか

○交通事故の記事をまとめて自分の考えを述べようとした子ども

- ・ 集めた交通事故の記事を、発生場所、時間、事故を起こした人の年齢、事故にあった人の年齢といった観点でまとめて分析をした。

○歴史の記事をまとめて自分の考えを述べようとした子ども

- ・ いくつかの歴史の話題になった記事を比較して時代比較をした。

○スポーツ欄の記事からテーマに沿って調べて考えを述べようとした子ども

- ・ プロ野球の勝ち負け ・ サッカー選手の秘密 ・ バレーボール日本チームのことなど

○外国の子ども、日本の子どもの記事の比較からの考察した子ども

- ・ 外国の子どもの記事は悲しい記事が多く、日本の子どもの記事は明るい記事が多いといった考えを述べていた。

○一面記事（トップ記事）の分析を元にした考察した子ども

- ・ どんな記事がトップ記事になっているか2か月分をまとめて気がついたことをまとめた。

○自然災害の記事をまとめて自分の考えを述べようとした子ども

- ・ 災害の規模、災害時の対応について記事の中から読み取れることを考えた。

○植物の記事を見出しを元にまとめて自分の考えを述べようとした子ども

- ・ 花や木などの植物が話題となる記事を集め、見出しと内容を比べながら新聞はどんなことを伝えようとしているか考えてみた。

○自分の興味ある記事を分析して自分の考えを述べようとした子ども

- ・ 動物のこと、環境のことなど興味ある記事の内容をまとめたり、読み取ったりして自分の考えを持とうとした。

④ 実際にできた意見文より

＜自分の興味ある記事进行分析して自分の考えを述べようとした子どもの意見文＞

実際に子どもが書いた意見文を紹介したい。興味ある事柄を記事の中から見つけ、自分なりにまとめて考察をしたものである。

実際の意見文

象牙の取引のことを調べて

押沢 祐

1 調査の動機

学校でや、ているNIEの勉強で、動物をテーマにや、ていたら、象牙の記事がの、って以前から、ニュースや新聞記事でとりあげられていて興味があったので調べてみた。

2 調査の方法

象牙についてののっている記事がスクラップしてあったので、その記事を読み分かったこ

とをノートに書くにした。

3 調べて分かったこと

(1) 場所について調べて分かったこと

象牙は主にアフリカから輸入されている。でも、そのなかで、ケニアなどのところは象牙の取引を全面禁止派で、南アフリカ諸島と南アフリカは解禁派とアフリカないですべてのところは輸出をしているわけではないということもわかった。他にも、1997年の、会議ではボツワナ、ナミビア、ジンバブエの

3ヶ国は、国内のストックを1回だけ試験的に日本に輸出することが認められた。

(2) 量について調べて分かったこと

ボツワナ、ナミビア、ジンバブエは、昨年約50トンの象牙を日本に輸出した。このことで3ヶ国が1回ストックをたすと、50トンもの量になることが分かった。

(3) 規制について調べて分かったこと

規制について調べてたら、ワシントン条約の付属書1に絶滅の恐れが高く商業取引を禁

する動植物を、付属書2に許可があれば商業取引が可能な動物を指定している。そこで、自国産の動植物が付属書1から2になれば、規制をうけながらも取引できるようになる。でも、規制をうけながらも象牙の取引をしていたら密猟者が増えると思う。

(4) 輸出、輸入する側の主張について

輸出する側のアフリカは、年間割当量、全面禁止など地方によってちがうが象牙の取引は部分解禁派と禁止派の二つに分かれている。

輸入する側の日本は、国内にベ、甲産業を抱えているので密輸の防止種の保存は確保可能のため提案に賛成している。日本にはベ、甲産業があるから、象牙が輸入されないでベ、甲産業をしている人達は困ってしまうと思った。

各国の主張

国	ア	フ	リ	カ	ソ	ウ	ア	イ	ン	ド
ボツワナ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
ナミビア	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
ジンバブエ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
南アフリカ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
ケニア	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
タンザニア	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
ザンビア	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
モザンビーク	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
マダガスカル	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
スリランカ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
インドネシア	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
タイ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
中国	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
日本	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

4 考えたいこと

これまでのことから考えてみると、象牙が国内にストックとしてあることはこれまでにそれだけの量の象牙殺してきた。でことだし、象牙をねら、ている密猟者はまだ多いなってないと思う。だから、私は象牙を輸出する量も大切だけど、密猟者のことも、もっときちんとしてほしいと思った。あと、ケニアとインドは全面禁止にするためどんなことをしているのかと思う。だからこのことに

ついてはこれから、NIEの授業をとうして調べていこうと思った。しうっ、これまで象牙に関する会議はどのくらいあるのかなと思った。

⑤ 学習を振り返って

- ・日常的に取り組んでいた新聞スクラップを作文学習の材料に取り上げたことは、子どもたちが意欲的に学習に取り組む姿につながった。成果として、自分が行う活動に見通しを持って取り組めたこと、自分の方法で一人一人が新聞記事を調べ、まとめることができたことがあげられる。
- ・この学習を通して、子どもたちが、より新聞のよさを感じることができた。新聞は、いろいろな情報を伝えるものであること、読み手の必要によって活用できること、スクラップのように保管しておけば必要なときに取り出せること等である。
- ・文章を書くという国語学習の観点で活動を振り返った場合、文章構成、段落のつけ方、その文章に適した表現の仕方など、スクラップした新聞記事を参考にする姿がみられた。教師は、特に文章で表わすとき新聞記事の文章を参考にするように助言したわけではないが、自分の興味・関心のある新聞記事を材料として選んだこと、その記事をよく読み返したこと、自然に子どもが取り入れていったと思われる。教科書に記載されている教材文を一斉に取り上げて、文章表現の学習をする場合があるが、それとは違って一人一人参考にする文章（新聞記事）があり、その子にあった文章の学習へとつながった。

(3) 学級活動、新聞作りの取り組みより

① ニュースタイム

5・6年生

新聞記事の中から話題を見つけ、毎朝、スピーチを行った。5年生は、ニュースの材料をどんなところからでも良しとしたが、多くの子どもが新聞の中から見つけてくることが多かった。新聞記事を切り抜いてきて、それを材料に自分の感じたことや伝えたいことをスピーチにする子が多かった。

6年生は、実践2で紹介した新聞記事スクラップを日常的に行っていたので、その活用の一つとして、新聞スピーチを行った。自分の順番になると（1日に2人）スクラップの中からスピーチしたいものを選び、その近くに考えを書いてスピーチする子が多かった。だんだんと慣れてくると、いくつかの新聞記事に関わらせて、スピーチを作り出す子どもの姿も見られた。

◇実践が紹介された新聞記事より



NIE
教育に新聞を

楽しむ

坂城町村上小
6年生

埴科郡坂城町村上小六 など好きなテーマを設け 交通事故の記事を集め
年生三十四人は年間を通して、記事を集めていく。 た子どもが「いつどんな
じた活動として新聞記事 それぞれに感想をつける ところで事故が起きてい
のスクラップを続けてい 場合もある。一学期は国 るか」をまとめるなどユ
る。担任の仲弘久教諭 語の授業で、自分のスク ニックな内容もあった。
三とは「できる範囲で無 ラップをもとに意見文を 仲教諭は「自分が探した
理なく新聞に 記事の分、主
親しんでほし 体性が出た気
い」と特に関 がつく」と話
数などの指示はせず、子 書いた。仲教諭によると、す。個人スクラップは昨
どもの自主性にゆだねて 「自由作文だと『何を書 年に続き二年目の試み
いる。 いていいかわからない』 で、二学期中に再び意見
自宅で講読している新 という子が二、三人はい 文の授業を予定してい
聞を使い、一人ずつ「植 るのに一人もいなかっ 物『歴史』『プロ野球』 たという。

スクラップ続け意見文

② 新聞作り

4・5・6年生

新聞の記事を活用することから、実際に自分たちで新聞作りに挑戦する活動も行われた。

6年生は、修学旅行の記録や思い出を新聞に表した。見出しの付け方や記事の割付の仕方など、新聞紙面を参考にして行う子どもの姿がみられた。

5年生は、夏休みの思い出をみんなに知らせるというねらいで、夏休み新聞作りに取り組んだ。形式はこだわらず、自分の夏休みの様子がよくわかるように書こうとする子が多く、写真や絵を使った新聞ができた。

4年生は、社会見学（浄水場など）の記録を新聞にまとめた。どんな風に新聞にまとめたらいいか、よくわからないとき、6年生の作った「修学旅行の新聞」を参考にしながら取り組んでいた。

③ N I E新聞

図書館司書の先生と図書委員会が中心となって、話題になった新聞記事を集め「N I E新聞」として掲示した。掲示したN I E新聞はただ投げ掛けるだけに終わらず、その記事を読んだ子どもたちの反応が知りたいと考え、近くにポストを置いて記事を読んだ感想を入れてもらった。

＜成人式の記事を集めたN I E新聞を読んだ子どもの感想＞

- ・せっかく大人になったお祝いの成人式で市長も祝ってくれているのに問題を起こすのはおかしい。
- ・成人式騒ぐなんてひどいと思った。高知県の知事が「出て行け」と言うのも当たり前だと思った。
- ・成人式なのに暴れたり、騒いだりしてとても変だなあと思いました。しかも、人の話を聞かずに電話（携帯）をかけたりしているのも変です。これからの日本はどうなるのかなと思った。
- ・大雪でも、成人式で新成人の人たちはとても元気そうだった。飲みにいこうというほど、その日は大雪なのにきっと楽しかったと思う。

このように成人式の記事のどこに目をつけて感想を書いたか、子どもによって違う。しかし、自分の考えが書いてあり、新聞記事への関心を感じる。

N I E新聞は、数回実施した。

4. 実践の感想と今後の課題

- 新聞への興味・関心を高め、新聞のよさを子どもたちが実感するようにいくつかの取り組みをしてきた。新聞のよさとして、身近にあること、ストックしておけばいつでも見返すこと、工夫をすれば多くの子どもがいっしょに見られることなどが挙げられる。これらのよさを生かした実践をすることができた。特に、一人一人がテーマを決めて新聞記事のスクラップ作りに取り組んだことは、新聞のよさを感じ、新聞を生かす取り組みにつながった。また、新聞への関心が高まる活動になった。
- 中学年におけるN I Eの可能性を探るべく新聞にある四コマ漫画の教材化を試みたことは、新聞への親しみを感じさせるよいきっかけになった。4年生ぐらいの子どもたちは日常生活の中で新聞にふれる機会は少ない。身近にありその存在は十分わかっているもののきっかけがないのである。そのきっかけ作りとして学校におけるN I Eが

働く場合があることを感じた。

○2学期以降に送られてきた6社の新聞を毎日N I Eコーナーに整理して配置したところ、通りかかった多くの子どもたちが新聞を広げていた。N I E実践の2年目を迎えて、子どもたちの中に学校で新聞が自由に読めることが広がっていった成果であろう。

●課題として、次のようなことがあげられる。

- ・新聞の中のその情報を、どんな場面で取り上げていくか。また、どう子どもたちに選ばせていくか。さらに、実践を重ね検討をする必要がある。
- ・総合的な学習におけるN I Eの可能性はどんなところにあるか。

5. おわりに

2年間N I Eの実践を行い、感じたことを最後に書きたい。

- ・実践者の教師自身が新聞をよく読むことが大事である。どの新聞記事を使うか、どの見出しに注目するかなど、教材化の視点で新聞に向かうことが必要である。また、新聞を読むことが楽しみなることも大事なことである。
- ・断片的に扱うのもよいが、継続的に実践を重ねていくことが必要である。子どもの意識を高め、新聞を使った学習成果をあげるために、継続していくことが大事である。

この2点を特に実践してみて感じた。私自身、新聞を以前よりも読むようになり、自分なりの新聞の楽しみ方がもててきたような気がする。